

## はじめに

### 小学生・中学生の皆さんへ

学校での学習は、みなさんが将来社会人として自立するための基礎となるとても大切なものです。そのため、学校では、基礎基本をしっかりと身に付けられるよう、いろいろと工夫した授業を行っています。

しかし、学校で学習したことを定着させるためには、家庭での学習もとても大切です。家庭での学習が十分にできるようになると、学校での勉強がもっとわかるようになっていたり、楽しくなったりします。

また、家庭での学習を毎日続けることで、勉強への集中力や学習習慣が身につく、困難なことに出会ってもくじけないで積極的にチャレンジしようとする力も大きくなります。

家庭での学習は、宿題はもちろんのことですが、その日に学習したことの復習や、これから学習するところの予習を、毎日、欠かさず行うことが大切です。

そして、「もっとここを調べてみよう」、「ここをもっと繰り返してみよう」など、自分自身の課題に応じた学習を、積極的に取り組むことが大切です。

### 保護者の皆様へ

家庭学習は、学校での学習の定着・発展にとっても大切です。

全国学力・学習状況調査の結果からは、家庭学習を行っている子どもほど、平均正答率が高い状況が報告されています。毎日のコツコツとした積み重ねが、何年か後、大きな学力の差となって表れてしまいます。

家庭学習の定着には、各御家庭の協力や支援が欠かせません。特に、低学年であるほど保護者のかかわりが、その後の家庭学習の定着に大きく影響するといっても過言ではありません。

子どもたちへの保護者の方からの励ましやお褒めの言葉は、子どもたちの学ぶ意欲を大きく引き出し、伸ばします。

天栄中学校区では、校区の小学校と中学校が義務教育9年間を見通し、子どもの学ぶ意欲を高め、生きる力を培うことを願い、「天栄中学校区“学びのつみかさね”—家庭学習のてびき—」を作成しました。この資料が、家庭学習の定着と学力の向上の一助となりますことを願い、保護者の皆様の御協力をお願いいたします。

## 基礎的・基本的な学習とは …

学校で、教科書に基づいて学習する内容が、基礎的・基本的な学習といえます。

特に、小学校で学習する次のような学習は、その後の学年にもつながらないようです。そのため、学習した学年で確実に身につけておかないと、その後の学年で困ることになります。

例えば、前の学年で学習した漢字の読み書きを確実に覚えておかないと、新しい学年の教科書が読めなくなることもあります。

また、算数でも前の学年で学習した計算方法などを覚えておかないと、その後の学年での計算や解き方がわからなくなることもあり、結果として算数・数学が分からなくなり、学習意欲を低下させることにもなります。

小学校で学んだ基礎的・基本的な学習は、中学校の学習へとつながっていくので、学校での学習を家庭で振り返り、しっかりと覚えていくことがとても大切です。

### 小学校で大切なこと

- ◎ 算数の教科書に出てくる程度の算数の問題を解くこと
- ◎ 教科書に出ている漢字を読んだり書いたりすること
- ◎ 教科書に出てくる程度の文章を“すらすら”読むこと



## 家庭学習とは …

家庭学習は、授業の内容をより深く理解することに欠かすことができない学習です。家庭学習で取り組む内容は、大きく次の二つの内容があります。

- ◎ 宿題 …… 必ず取り組むべき課題です。  
基礎学力を身につけることを目標としています。
- ◎ 自主学習 …… 自分で課題を見つけ、学校での学習をより深く身に付けます。  
課題を追究する力、思考力、表現力などを身に付けることを目標とします。  
中学校3年生になれば、卒業後の進路選択に向けて、とても大切な取組です。

## <家庭学習のポイント>

- ① 毎日、必ず行う。
- ② 毎日、続ける。
- ③ 学習する時間を決める。
- ④ 学習に集中できる環境を整える。(テレビを消す、机の上を片付けるなど)
- ⑤ 学習する内容や課題を定める。
- ⑥ 携帯電話・スマートフォンなどは、身近に置かないようにする。

### 「中学生として、ぜひ取り組みたいこと」

- ◇ 予習：自分でできることに取り組みます。  
    語句や単語の意味を調べたり、本文をノートに写したりするとよいでしょう。
  
- ◇ 復習：暗記が必要な科目では、復習が有効です。  
    今日習ったことは、その日の内に復習しておきましょう。  
    また、授業中にとったノートは、そのままにしておかないで、自分なりにまとめ直してみると、内容が整理できて、理解が深まります。

## 家庭学習で身につく力とは …

家庭学習では、次のような力が身につきます。

- 繰り返し学習することで、基礎学力が身につきます。
  - 基礎学力が身につくことで、「考える力」や「表現する力」が身につきます。
  - 「考える力」や「表現する力」が身につくことで、新たな発見がうまれます。
- 
- 自分で学習時間を作り出そうとする態度で、生活リズムが整います。
  - 生活リズムが整うことで、食欲がでて、体のエネルギーが蓄えられます。
  - 体のエネルギーが蓄えられることで、活動する意欲や心の落ち着きがでます。
  - 活動する意欲や心の落ち着きにより、集中力が高まります。
  - 集中力が高まることで、課題を発見し、課題を解決する力が高まります。

## 家庭学習を始める前に …

家庭学習の定着には、毎日の規則正しい生活習慣を身に付けることが大切です。

「早寝早起き朝ごはん」と言われますが、このことが、とても大切です。  
学習効果や学力向上の土台は、「基本的な生活習慣」といっても間違いありません。

- 「朝ごはん」は、一日のエネルギー源となります。「朝ごはん」を食べることで「脳が活性化」し、学習や運動への意欲、集中力を高めます。
- 「早起き」には、「早く寝る」ことが必要です。特に、小学生では、一日の睡眠時間は、8時間から9時間ほど必要とされています。
- 朝、目覚めたら、朝日を浴びることが大切です。朝日は、体内時計を動き出し、一日の生活への体と心の準備を整えます。
- テレビやテレビゲームなどの時間は、一日2時間以内が望ましいとされています。

一日の生活リズムを整え、家庭での学習の時間を確保するようにしましょう。

### ◇ 読書に進んで取り組みましょう。

「読書」は、漢字の読み書きを覚え、言語活動を育む基盤となります。  
各家庭でも幼い頃から、本に親しむ習慣や環境づくりをお願いします。  
時には、親子で読書の時間を過ごしたり、子どもへの読み聞かせを行ったりしてみてください。本を通じた親子の会話が広がることで、子どもが読書の楽しさを実感するきっかけづくりにもなります。

## 家庭学習を行うことで …

学習したことの復習や、学習することの予習は、授業の理解度や授業に対する真剣味を増すことにつながります。

家庭学習は、授業を充実させるためには欠かせないものです。そして、継続することで、確実に学力は向上します。

毎日1時間の家庭学習を1週間続ければ学習時間が7時間となります。土日にあと1時間ずつ行えば9時間になります。これを1ヶ月（5週間）続けると45時間になり、1年間続けると540時間になります。

この差が、結果として「学力」に大きな差を生むことは明らかです。

## 家庭学習での“学びの積みかさね” …

中学校3年生

進路に向けて目標を明確にして取り組む。

- ◇ 様々な問題に、数多く触れる。
- ◇ 進路に向けて、これまでの学習を復習する。

中学校1・2年生

計画的・継続的な学びを進める。

- ◇ 予習・復習に重点をおき、定着させる。
- ◇ プリントやワークを有効活用する。

小学校5・6年生

自発的な学習を定着させる。

- ◇ 時間を決めて学習する習慣を定着させる。
- ◇ 自ら調べ、読み、まとめる力をつける。

小学校3・4年生

「進んで学習する」習慣を身に付ける。

- ◇ 練習問題を繰り返し解く習慣をつける。
- ◇ 机の上を整理整頓する習慣をつける。

小学校1・2年生

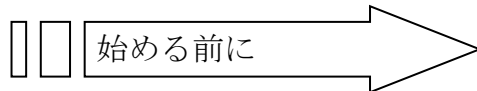
「親子で一緒に」学習する時間をつくる。

- ◇ 毎日学習する習慣をつける。
- ◇ テレビを消して学習する習慣をつける。

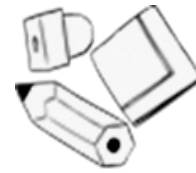
# 小学校低学年(1・2年生)

目標「親子で一緒に！」

いろいろなことに興味をもち、どんなことでもやってみようという意欲にあふれています。認められたいという気持ちが強いので、ほめると喜んで取り組むようになります。また、「どうして」などの疑問を通してわかることの楽しさ・喜びを知ります。ただ気が散りやすい面もあるので、親子で一緒に学習する姿勢を示してあげてください。



- ◎宿題は必ずしましょう。
- ◎音読は毎日しましょう。
- ◎進んで自主学習（自分で決めた勉強）や読書しましょう。



## 家庭学習の3つのポイント

- 毎日決まった時間に勉強しよう。
- 机の上を片づけて始めよう。
- テレビを消して勉強しよう。

がくしゅうじかん  
学習時間のめやす  
30分程度

こんな家庭学習をしてみよう（自主学習の参考に）

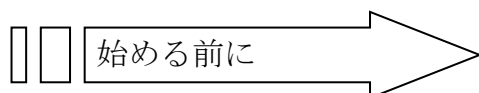
- ①ひらがなやカタカナの練習(れんしゅう)をしよう
- ②漢字(かんじ)の練習(れんしゅう)をしよう
- ③絵(え)日記(にっき)や作文(さくぶん)を書(か)こう
- ④辞典(じてん)や図鑑(ずかん)で調(しら)べてみよう
- ⑤声(こえ)に出(だ)して本(ほん)を読(よ)もう
- ⑥九九を覚(おぼ)えよう
- ⑦いろいろな本(ほん)を読(よ)もう（読書(どくしょ)）
- ⑧計算(けいさん)カードをしよう
- ⑨テストで間違(まちが)えたところを勉強(べんきょう)しよう



# 小学校中学年(3・4年生)

目標「進んで学習！」

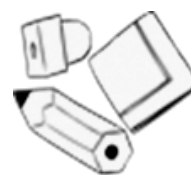
興味をもつことから行動範囲も広がり、個性が伸びる時期です。好きなことに熱中し、自主性が出てくる一方で、短期間で終わり継続しないこともよくあります。子どもが納得して理解するには、順を追って話し合うことが大切です。子どもの努力を見逃さず、温かい励ましやアドバイスをすることが、子どもを意欲的にさせ大きな成長を促すでしょう。



◎宿題は必ずしましょう。

◎音読は毎日しましょう。

◎進んで自主学习（自分で決めた勉強）や読書を楽しみましょう。



## 家庭学習の3つのポイント

- 毎日決まった時間に勉強しよう。
- 机の上を片づけて始めよう。
- テレビを消して勉強しよう。

がくしゅうじかん

## 学習時間のめやす

3年生 30分～45分

4年生 40分～60分

【学年×10分～15分】

こんな家庭学習を試みよう（自主学习の参考に）

- ① 漢字の練習をしよう
- ② 日記や作文を書こう
- ③ 辞典を使って意味を調べよう
- ④ 声に出して本を読もう
- ⑤ ことわざを調べよう
- ⑥ ローマ字を覚えよう
- ⑦ 生き物や天体を詳しく観察しよう
- ⑧ 地図帳や図鑑を使って地名（市や県や国など）を覚えよう
- ⑨ 計算(カード)や文章題の練習をしよう
- ⑩ いろいろな本や新聞などを読もう
- ⑪ テストで間違えたところを勉強しよう



# 小学校高学年(5・6年生)

目標「自発的に学習！」

学習内容が難しくなり、不得意な教科がでてきたり、理解度に個人差がでたりしやすい時です。そのため、この時期の「自ら学習しよう」という姿勢が、今後の中学校生活に向けて、とても重要になります。自分でできるから長い目で見てほしいという気持ちが強くなるので、自主性や、自発的な学習習慣を身につけるためには、粘り強く見守ることも大切です。子どもの努力を見逃さずに、褒めることや、温かい励ましや、自主学習のアドバイスもしてあげてください。



始める前に

◎宿題は必ずしましょう。

◎進んで自主学習（自分で決めた勉強）や音読、読書をしましょう。



## 家庭学習の3つのポイント

- 毎日決まった時間に勉強しよう。  
(時間を決めて勉強しよう。)
- 机の上を片づけて始めよう。
- テレビを消して勉強しよう。

がくしゅうじかん

## 学習時間のめやす

5・6年生 1時間以上

こんな家庭学習をしてみよう（自主学習の参考に）

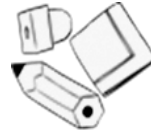
- ① 漢字の練習をしよう
- ② 語句の意味を辞典でしらべよう
- ③ 音読をしよう
- ④ 日記や作文を書こう
- ⑤ 計算や文章題の練習をしよう
- ⑥ 公式や図形の性質、用語をノートにまとめよう
- ⑦ いろいろな本やニュースや新聞などを読んで、感想を書こう
- ⑧ 理科や社会の調べ学習をしよう
- ⑨ 歴史年表を作ろう・年号を覚えよう
- ⑩ 百人一首を覚えよう
- ⑪ 苦手な教科の勉強をしよう
- ⑫ テストで間違えたところを勉強しよう
- ⑬ 予習・復習をしよう





# 中学校

## <家庭学習の方法>



### 1 「まずは机に向かう」

「やる気」は机に向かい、教科書を開いて勉強することでわいてくるものです。まずは、机に向かう習慣をつけます。

### 2 「教科書・ノートは必ず持ち帰る」

机に向かっても勉強道具がなければ「やる気」もなくなります。勉強道具は、毎日必ず持ち帰ります。

### 3 「学習内容は事前に決める」

机に向かってから何を勉強するのかを考えるのではなく、事前に取り組む内容がわかっていることが大事です。

### 4 「帰ったらまず復習をする」

帰ってから夕飯までの時間をいかに過ごすか。この時間をダラダラと無駄に過ごすよりも1日の生活を振り返り、授業内容を思い出しながら30分でも勉強します。この取り組みが勉強に取り組む意識を変え、効率を高めます。

### 5 「テレビやゲーム等は2時間以内と決める」

テレビを見るのが当たり前の生活は学習の妨げであり、勉強をする意識を低下させます。テレビ等のメディアの時間は、あらかじめ決めます。

### 6 「勉強中心の生活パターンを習慣化する」

食事、風呂、学習の順に生活パターンを考え、空いた時間をテレビ等の休憩の時間とします。習慣化は脳を活性化し、学習効率を高めます。

### 7 「土曜日・日曜日を踏ん張る」

平日はどうしても学習時間の確保が難しくなります。だからこそ土日の過ごし方はとても大切です。部活等の時間を考えた上で、まとまった学習の時間を確保します。夜は、翌日の予習を中心に学習を進め、早めに休みます。

### 8 「予習を最大限生かす」

予習をすることで、授業を聞くポイントがわかります。予習で疑問に感じたことは授業の中で確認し、必要に応じて先生に直接聞きます。

### 9 「新聞に目を通す」

新聞は知識の宝庫です。世の中の出来事や様々な考え方など、多くのことを活字を通して私たちに発信しています。

### 10 「寝る前の読書で心の栄養を取る」

15分程度の時間でもいいので、読書を読みます。読書をすることで、ほどよくリラックスして、ぐっすりと眠ることができます。本を心の栄養とし、自分自身の心を耕します。

## <家庭学習のポイント>

### 中学校 1・2年生

めあて：計画的・継続的な学びを進める

#### ポイント 1

予習・復習の習慣を身につける！

小学校の時と比べると、中学校の授業内容や授業進度をかなり負担に感じる事が多くなると思います。あらかじめ自分で調べたり考えたりして授業に臨む（予習）ことや、その日のうちに教科書・ノート・プリント・ワークなどを使って学習のポイントを整理する（復習）ことによって、授業の理解度や定着が大きく違ってきます。

#### ポイント 2

学校・先生のプリントを有効活用する！

授業で先生から配付されるプリントには、学習のポイントが整理されています。バラバラにならないように、きちんと整理して活用することが大切です。毎日の予習や復習にはもちろんのこと、テスト勉強の際にも見直したりして有効に活用しましょう。

#### ポイント 3

問題を解いた後がもっとも大切です！

問題を解いた後が最も大切です。わからない時は、わかるところまで戻って解くことも大切ですし、間違ったところは必ず見直しをして問題に印を付けておきましょう。印を付けた問題を先生や友達に相談してもいいですし、テスト前は印を付けた問題を重点的に確認しましょう。

# 中学校3年生

## めあて：進路に向けて目標を明確にして取り組む

### ポイント 1

#### 進路の目標を具体的に決めて計画を立てる！

進路の目標がはっきりしないと具体的な計画は立てられません。目標は早く決めて、目標に向けて何が不足しているのか、何が必要なのか、現在の自分の力をよく考え、努力すべき点を明確にすることが大切です。そのためにも、家族でしっかりと話し合うことも必要でしょう。

### ポイント 2

#### 生活リズムを整え、上手な時間の使い方を工夫する！

睡眠不足では疲れが取れず、集中力も続きません。また、朝食を抜くとエネルギー不足となり、脳の活動が悪くなります。自分の力を最大限に伸ばすために生活リズムを整え、家庭学習の時間やテレビなどメディアの使用時間を決めるなど、上手な時間の使い方を工夫しましょう。

### ポイント 3

#### 3年生の学習内容と1・2年生の復習を両立させる！

部活動引退前、部活動引退後、長期休業中など、時期によって時間の使い方を工夫する。(例えば、引退前は平日は3年の予習復習、休日は1・2年生の復習をする。長期休業中は1・2年生の復習を中心にする。など)自分に合った方法を工夫し、中学3年間のまとめの学習になるようにしましょう。

## <定期テスト勉強の方法>

---

### 1 「2週間前までにはテストモードに切り替える」

スタートの時期が早ければ早いほど効果は上がります。生活をテストモードに変える時、気持ちもテストモードに切り替えます。

### 2 「無理のない、それでいて努力を要する計画を立てる」

気持ちにゆとりを持ち、見通しを立てて取り組むには計画が必要です。試験の範囲を確認し、学習内容量やそのために必要な学習時間を割り出します。その上で優先順位をつけ、オリジナルな計画を立てます。

### 3 「不安を持ったままで試験に臨まない」

わからない部分をそのままにして試験に臨んではいけません。不安を抱えたままでは実力は発揮できません。先生や友達の力を借りて確実に理解し、試験に臨みます。

### 4 「情報収集をしっかりと行う」

授業中、先生からのテストに関する説明を聞き漏らすことなく、友達とも情報交換を進めながらテスト問題をイメージします。テストにおける情報収集は、学習意欲の喚起にもつながります。

### 5 「教科書・ノートを最大限に活用する」

基本的に授業で学んだことをどれだけ理解できているか、また学んだことを活用できるかを調べるのがテストです。教科書・ノートで授業内容をしっかりと確認します。

### 6 「問題を解いて理解度を自己診断する」

学習内容の理解度を測るためには、教科書の問題、授業で使っている問題集やプリントなどの活用が効果的です。問題を繰り返し解いて、学習の定着を図ります。

### 7 「テスト対策ノートの作成」

テスト対策ノートを作成するという努力が心のゆとりを生み、テストへの集中力を高めます。

### 8 「テスト終了後、再テストを2回行う」

テストが返されたら、もう一度問題に取り組み、課題克服に励みます。こうすることにより、自分自身の課題がはっきりします。その時に理解すべきことは後回しにしないことが基本です。この取り組みは、次のステップにつながります。